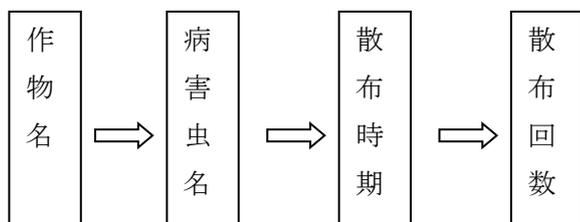


車は人や物を運ぶのに大いに役立ち生活に無くてはならない物ですが、一步誤ると傷害や殺人の道具となる危険な乗り物です。一方野菜や花で良質で安定した収穫物を得るためには農薬は無くてはならない物です。しかし、使い方を誤ると散布者の事故、安全性に欠ける収穫物など問題を生じます。しかし、車の安全運転、農薬の安全使用を心がければこれほど便利で役に立つものはありません。上手に活用しましょう。

農薬をうまく使えば危険な物ではなく、品質がよく安全で有機農産物なみの収穫が得られる便利な物です。見方を変えれば、有機農産物よりも安全な物かもしれません。一般に農作物は害虫の攻撃を受けると、その攻撃を防ごうと抵抗物質を生成する傾向がありますし、ヨトウムシなどは葉の上に大きな虫糞を残します。これらの物質が安全かどうかは確認されていません。

注意点の第一は、添付されている注意書きをよく読むことです。作物名、病害虫名、使用濃度、使用時期などが記載されています。そこに散布しようとする作物名がなければ使えません。それを無視すると、作物が枯れたり、収穫時に農薬が残ったりすることがありますので必ず守ってください。この点に関して農家は非常に神経質になっており、安全使用をこころがけています。

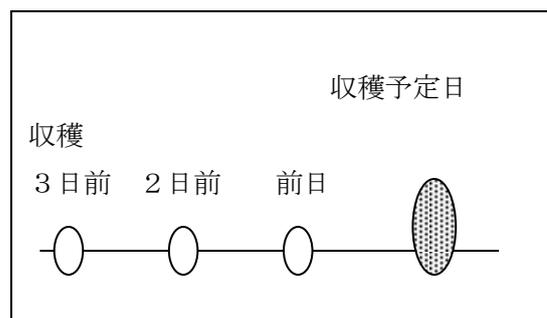


注意点の第二は、どの害虫に効果があるかです。そこに記載されていない害虫については効果の保障はありません。それゆえ今どんな害虫が発生しているかをきちんと把握する必要があります。

注意点の第三は、使用濃度です。水で溶かす農薬は必ず規定の倍数に薄めてください。多くの薬剤は1000倍～2000倍に薄めますが、4000～10,000倍に

薄めるものもあります。霧吹き型噴霧器では容量が1リットル程度ですので、1000倍に薄める場合には薬剤量は1ccに過ぎません。ほんの2～3滴です。これで十分です。入れすぎないように！多く入れても虫に対する効果は増えませんし、逆に作物の葉が枯れるなどの副作用が起こります。よくある誤りは一桁間違いです。1000倍で使用するとき、1リットルしか入らない霧吹き散布器に10ccの薬剤を入れることです。野菜にとっては迷惑このうえないことです。

注意点の第四は、散布してもよい作物であっても散布時期と散布回数が制限されています。散布回数はその作物が一生の間に何回まで散布できるかを示したものです。散布時期は収穫予定日から逆算しての使用限界日のことで、3日前と記載されておれば、散布後3日間は収穫できませんが、その日を過ぎれば残留農薬もなく安全であるということです。最近の農薬では、散布前日でも使用可能なものが増えていきます。



以上4点を守っておれば、無農薬栽培と同じように安全で良質な収穫物が得られます。農薬をうまく使ってよい野菜を栽培しましょう！

また、野菜の葉や虫の体に薬液の付着を良くするために展着剤というものがあります。これ自体はなんの効果もありませんが。農薬を溶かした水の中にほんのわずか加えることによって農薬の効果が増します。乳剤では加えなくても良いのですが、どの薬剤に必要でどの薬剤では不要かの判別が難しいので基本的には加えてください。また、ネギやキャベツなど水をはじきやすい野菜では必ず加えてください。